

コリント人への手紙第一 4:1-21 忠実さ—一つの基準

今日の聖書箇所、コリント人への手紙第一 4 章で、パウロはコリントの教会内での分裂に対する彼の思いをまとめています。どうしようもない信徒たちの不一致の中心にあるものは、教会のリーダーシップとは本来どうあるべきかについての誤解でした。パウロはそのことについて忠実さという視点で述べています。3 章の終わりで見たように、私たちがキリストに在る自分の立場を本当に理解しているならば、この教会で起こっていたようなプライドによる分裂を許さない、キリストに忠実に仕える生き方が求められるのです。祈ってから今日の箇所を見ていきたいと思えます。

使徒や牧師、長老と言った人間的な指導者を中心として信者たちが分裂することが、なぜいけないのかについてパウロは述べています。では、神が教会を導くために召された人たちと、どのように関わって行けば良いのでしょうか。4 章はそのことについて「このように考えるべきです」という文章で始まっています。パウロは「自分たちの人格をめぐって対立するのではなく、自分たちをこのように見るべきだ」と主張しているのです。パウロは「人は私たちがキリストのしもべ、神の奥義の管理者と考えるべきです。」と言っています。パウロにとって、使徒や牧師、長老たち自身ではなく、彼らが仕えている方を指し示すことが全てでした。彼らはしもべや管理者でしかないのです。教会において霊的でない者たちは、影響力があり、賢く、雄弁と思える人を尊敬しました。また、自分に洗礼を授けてくれた人に誤った忠誠心を抱いてしまってもいました。パウロは人々のリーダーシップを評価するのに、こうしたものとは違う基準を示しています。2 節には「2 その場合、管理者に要求されることは、忠実だと認められることです。」とあります。これこそが教会のリーダーシップに対する基準です。忠実であることが求められます。教会における評価はどれだけ多くの人を従えているかによるのでも、ビジネス的な能力によるのでも、資金集めの能力によるのでもありません。教会における評価は、福音の働き、つまり「神の奥義」に対する忠実さで測られます。

忠実さがリーダーシップの基準であるとすれば、その忠実さを判断するのが誰なのかを知る必要があります。もちろん書簡は教会と教会員に宛てて書かれたのですから、彼らに忠実さを尊ぶようにと言っているのでしょう。けれど、その判断も霊的ではなく、見当違いとなる可能性があります。ですからパウロは、自分や他の使徒たちに対する人々の判断が最も信用に値するものではないことを述べています。3-5 節にはこうあります。「3 しかし私にとって、あなたがたにさばかれたり、あるいは人間の法廷でさばかれたりすることは、非常に小さなことです。それどころか、私は自分で自分をさばくことさえしません。4 私には、やましいことは少しもありませんが、だからといって、それで義と認められているわけではありません。私をさばく方は主です。5 ですから、主が来られるまでは、何についても先走ってさばいてはいけません。主は、闇に隠れたことも明るみに出し、心の中のはかりごととも明らかにされます。そのときに、神からそれぞれの人に称賛が与えられるのです。」教会の人々の裁きはいつでも良いと言っているわけではありません。ですが、神の裁きに比べれば「非常に小さなこと」だと言っています。全ての牧師/長老に期待されるように、パウロもキリストに仕え、キリストに裁かれます。パウロも、私を含めどのリーダーも見せかけの忠実な働きによって、謙虚な神の僕と人々に思わせながら、心の中では真に神の目的に従わないこともできます。どんな牧師、長老、あるいは執事であっても、敬虔で霊的で召しに忠実であるように見せながら、本当は自己中心的な動機や金銭的な利益のためにそのように行動するという誘惑から逃れることはできません。ですからパウロは、真の裁き主であるイエス・キリストは、人には見えないもの、つまり心を見ておられるのだと認めています。5 節に「心の中のはかりごととも明らかにされます」とあります。サムエル記第一 16:7 で神はサムエルに「人はうわべを見るが、主は心を見る。」と言われました。神は人々が私たちについて見ていることに基づいて私たちを裁くことはありません。私たちの内面、私たちが本当にどのような人間なのかについてご存知のことに基づいて裁かれます。この世では真の忠実さは必ずしも認められたり評価されたりしないかも知れませんが、神はそれを認めてくださいます。そして、それを褒め、報いて下さいます。ですが 3 章を思い出してください。素晴らしいミニストリーや教会の開拓に携わり、この世で尊敬される人でも、神の裁きの火の前に立つとき、それらの人の真の働きは神の火の中で木や干し草のようであるかも知れませんが、なぜなら、福音の働き手としてキリストに忠実に仕える人の本当の心と真の決意を神はご存知だからです。

パウロは、この言葉がそのまま自分たちにも当てはまることであり、地域の教会の長老など霊的指導者について、どのように判断すべきかを知ってもらいたかったのです。ですから6節以降、このように言っています。「6 兄弟たち。私はあなたがたのために、私自身とアポロに当てはめて、以上のことを述べてきました。それは、私たちの例から、「書かれていることを越えない」ことをあなたがたが学ぶため、そして、一方にくみし、他方に反対して思い上がることをしないようにするためです。7 いったいだれが、あなたをほかの人よりもすぐれていると認めるのですか。あなたには、何か、人からもらわなかったものがあるのですか。もしもらったのなら、なぜ、もらっていないかのように誇るのですか。」一方にくみし、他方に反対して思い上がることをしないように、という言葉は、このことが全ての教会に知られている使徒について言っているのではなく、地域の教会における問題として取り上げられていることを示しているようです。それは、私はジョン・パイパーに従うとか、アル・モーラーに、ジョン・マッカーサーに従うと言うようなものです。ですが、彼らは「私はベン・ハワードさんに従う、私は明石先生に、私は田部さんに従う」とも言っていたわけです。使徒たちだけに限らず、地域のリーダーたちをめぐって争い、キリストを通して指導者たちを見ていなかったのです。指導者たちをどのように判断するかということにおいて、書かれていること、つまり御言葉を越えることを求めるべきではなかったのです。パウロは自分が御言葉を、聖書を書いているということを認識していました。ですから、アポロと自分が働きについて語ったこととは違う（それを越える）基準を、地域の長老やリーダーたちに求めてはいけないということが言えたのです。聖書の明確な教えを越えることを許したのは、彼らのプライド、思い上がりによるものでした。プライドによって不一致が深まりました。プライドゆえに、誰に従うかを選ぶ際に聖書の教えを越えてしまったのです。私たちが誇りに思うべきことは何でしょう。指導者たちが誇りにすべきは何でしょう。何も誇りにすべきではありません。7節は、私たちが持っているものは何も誇る理由になり得ないと言っています。それらは全て神から与えていただいたものだからです。もし自分の力で獲得したもので、自分で育てたものでもないのなら、なぜそれを理由に誇ったり、分裂したりするのかという訳です。私たちが持つ全ての良いものは、神の私たちに對する恵みの表われです。

ですが私たちはプライドと傲慢さゆえにそのことを見過ごしてしまいます。指導者たちや自分に与えられている賜物に対して謙虚に感謝するのではなく、それらを当然と考え傲慢であり続けました。8節から始まっているパウロの皮肉な描写を見て下さい。「8 あなたがたは、もう満ち足りています。すでに豊かになっています。私たち抜きで王様になっています。いっそのこと、本当に王様になっていたらよかったです。そうすれば、私たちもあなたがたとともに、王様になれたでしょうに。」パウロは彼らのプライドを皮肉をもって指摘しています。彼らは自分たちが霊的に豊かであると思っていました。自分たちは霊的に偉大で王のようであり、他の人たちが従うべき存在だと思っていたのです。自分たちは使徒や長老たちに従っているといいつつ、実は自己中心的であるとパウロは言っているのです。自分たちの栄光を求め、忠実なリーダーシップを尊重しようとはしていませんでした。教会内の分裂の中心にあるものはプライドです。私たちは、すべてにおいてキリストとキリストの導きに従っている教会のリーダーたちに謙虚に従うよりも、自分の願いや気まぐれに皆が従うべきだと考えています。プライドは全てを神に栄光を帰するのではなく、自分が栄光を受ける機会に変えてしまいます。それは、パウロが霊的リーダーシップの証しとしている忠実な生き方とは真逆のものです。

9節からパウロは人々のエゴイスティックなプライドと、使徒たちの十字架を負った忠実さを比較しています。その差は歴然です。「9 私はこう思います。神は私たち使徒を、死罪に決まった者のように、最後の出場者として引き出されました。こうして私たちは、世界に対し、御使いたちにも人々にも見せ物になりました。10 私たちはキリストのために愚かな者ですが、あなたがたはキリストにあって賢い者です。私たちは弱いのですが、あなたがたは強いのです。あなたがたは尊ばれていますが、私たちは卑しめられています。11 今この時に至るまで、私たちは飢え、渇き、着る物もなく、ひどい扱いを受け、住む所もなく、12 労苦して自分の手で働いています。ののしられては祝福し、迫害されては耐え忍び、13 中傷されては、優しいことばをかけています。私たちはこの世の屑、あらゆるものの、かすになりました。今もそうです。」使徒たちは世から尊敬されるどころか、変わった人たちで、見せ物にされました。見せ物という言葉は、死刑を宣告され、ローマのコロシムで剣闘士と死ぬまで闘わせられる者たちに使われた言葉です。教会の人たちからでさえ愚かな者として見下げられていました。一方で、コリントの教会の人たちは自分たちは何でも知っていて、「キリ

ストに在って賢い」と思っていました。真の靈性とキリストらしさを示した使徒たちが飢え、渇き、着る物もなく、酷い扱いを受け、住むところもなかった一方で、彼らは尊ばれることを求めました。酷い扱いに文句を言うでもなく、迫害を耐え忍び、この世の屑で最低な存在として扱う者らをむしろ祝福しました。

私たちは大抵、自分の信仰を世に尊重して欲しいと思います。ですが、もし十字架のキリストに従うということを実に理解しているなら、それは人は皆救い主を必要とする罪人だというメッセージを伝えることを意味しているのが明確です。そのメッセージは尊敬ではなく、むしろ拒絶に繋がります。クリスチャン、トリニティ、あるいは教会の名前を冠した歴史のある立派な教育機関がこの世にはたくさんあります。ですが、今日ではそれらのクリスチャン教育機関には福音が存在しません。なぜなら、本当に福音を中心とするなら、それは教育における知恵とされるものと相容れないからです。そのため、十字架なしの、キリスト教倫理や理想に基づいた曖昧な教育理念を掲げ、十字架につけられたイエス・キリストを説くことを脇に置いてしまったのです。分裂を助長するクリスチャンたちが、キリストではなく人に目を向けていたために、これと同じことが教会でも起こっていたのです。彼らのプライドや知恵は、実際のところ使徒たちが大切にしていた全てを否定するものでした。使徒たちの生き方によって神が人々に示そうとされるのは、キリストに従うとは全てを捨て、既に死んだ者として生きることだとパウロは言っています。そのような生き方にはプライドなど全くなく、ただイエス・キリストの内にキリストを通して生きる生き方です。ガラテヤ人への手紙 2:20 にこのことが書かれています。「20 もはや私が生きていたのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。今私が肉において生きていたのは、私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子に対する信仰によるのです。」

このような言葉はコリントの人たちにとって耳に痛いものだったことでしょう。ですがパウロは彼らを責めるためにこのような事を言っているのではありません。彼らへの愛ゆえにです。14、15 節を見て下さい。「14 私がこれらのことを書くのは、あなたがたに恥ずかしい思いをさせるためではなく、私の愛する子どもとして諭すためです。15 たとえあなたがたにキリストにある養育係が一万人も、父親が大勢いるわけではありません。この私が、福音により、キリスト・イエスにあって、あなたがたを生んだのです。16 ですから、あなたがたに勧めます。私に倣う者となってください。」パウロは彼らの事を子どものように思っています。彼らを深く愛するがゆえに、キリストに在ることを反映しない生き方をさせたくないのです。最初に福音を伝えたのはパウロだったので、彼らが福音に根差した生き方を続けることに責任を感じたのです。ヘブル人への手紙 12 章では、このことを親であることの例えを用いて説明しています。ヘブル人への手紙 12:7-8 「7 訓練として耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。父が訓練しない子がいるのでしょうか。8 もしあなたがたが、すべての子が受けている訓練を受けていないとしたら、私生児であって、本当の子ではありません。」子どもを愛するなら、子どもを躰けるものです。それは神も、パウロも同じです。愛ゆえに、教会で分裂と不一致を招く高慢な姿勢について、パウロは靈的な子ども達に向き合いました。そして良い父親らしく、「私に倣う者となれ」と言うことで、彼らの事をどれほど大切に思っているかを示しています。本来、親は子どもが真似するよう良い模範を示したいと願うものです。ですが、パウロはここまでの 3 章で自分の素晴らしさはさておき、読者の目を自分ではなくキリストに向けようとしています。では、彼が批判しているプライドを彼自身が見せているのでしょうか。そんなことは決してありません。私の偉大さや私のやり方を真似たなさいと言っているわけではないのです。彼が自分に倣うように、と言っているのは、キリストと十字架（福音）に対する自分の忠実さであります。ですから、もう一度言いますが、私に従うのではなく、キリストに従いなさい、という事です。それは重い要求です。人にキリストへの自分の忠実さを真似たなさいと言うのなら、その人自身がキリストに忠実に従っているべきです。私たちは誰かに、キリストへの自分の忠実さに倣うよう言うことができるでしょうか

この章を終えるにあたり、パウロはそのような忠実な生き方の模範としてテモテについて述べています。17-21 節を読みます。「17 そのために、私はあなたがたのところにテモテを送りました。テモテは、私が愛する、主において忠実な子です。彼は、あらゆるところのあらゆる教会で私が教えているとおりに、キリスト・イエスにある私の生き方を、あなたがたに思い起こさせてくれるでしょう。

18 あなたがたのところに私が行くことはないだろうと考えて、思い上がっている人たちがいます。
19 しかし、主のみこころであれば、すぐにでもあなたがたのところにいきます。そして、思い上がっている人たちの、ことばではなく力を見せてもらいましょう。20 神の国は、ことばではなく力にあるのです。21 あなたがたはどちらを望みますか。私があなたがたのところに、むちを持って行くことですか。それとも、愛をもって柔和な心で行くことですか。」パウロは忠実な生き方は実際どのようなものかを示すために、自身が長老として育てた信仰の息子である牧師テモテについて述べています。後にコリント人への手紙第一 16:10 で、パウロはテモテの訪問を待つように言っています。テモテが来れば、キリストに忠実であるとはどのような事なのかを示してくれるでしょう。パウロは彼らに忠実さについて教えるだけでなく、忠実さの模範となる人物を送って、共に生活をする中でそのような生き方を見ることができるようになりました。その人生に福音の力を見るのです。パウロは人々が自分の言葉やテモテが思い起こさせることで、分裂を悔い改めることを望んでいます。そうすれば、書簡の中で言っているように「むち」を持ってではなく、柔和な心で彼らの所へ行くことができるからです。

コリント人への手紙第一のこの部分を終わるにあたり、二つの重要なポイントに注目したいと思います。第一のポイントは、忠実さがリーダーシップの基準であるべきだということです。YIBCにおいて、長老や執事、ミニストリーリーダーを選ぶ際に、一番に求めるべき性質は忠実な働きです。執事になったら奉仕を始めるものではありません。執事になるべき人たちは既に執事の働きをしていて、忠実に仕えています。これこそリーダーを選び、そのミニストリーを評価する方法であるべきです。第二のポイントもそこにあります。不一致の中心にあるのはプライドです。プライドは自分の欲望や必要を他の人のそれらよりも優先します。プライドは、教会が自分の必要を満たすために在り、人々は私の言うことを聞き、私の視点に従うべきだと思わせます。私たちが自己中心であればあるほど、教会としての一致は失われます。YIBCが神に望まれる教会となる事を求める時、このことは私たちが気を付けなくてはならない微妙な罪です。2023年度、新しい教会規約について検討して頂きたいと思っています。教会の体制を主任牧師と執事が主導するのではなく、長老が主導するように変更するためです。決を採る前に何カ月もかけて議論したいと思っていますが、規約の中の教会運営や構造に関する様々な点において一致し、合意するためには、私たち全員が謙虚になることが必要です。長期的なビルディング&グラウンドチームは、老朽化した建物に関する解決策を見つけるために前進していますが、長期的な計画を承認するためには、私的な欲望を捨て、神の目的との一致を求める謙虚さが必要です。そのような分野だけではありません。神から望まれる教会となれるよう、YIBCのあらゆる分野で神の御心を求める中、高慢さは私たちの一致を壊してしまいます。

主の晩餐に与るたび、私たちはキリストに在る一致を祝います。それは、この晩餐が象徴することを本当に理解したうえで聖餐式に与るなら、私たちの内にプライドを秘める理由がないことを理解するからです。このパンと杯は、私たちが皆罪人であり、私たちの罪を贖うためには犠牲が必要であったと言う事実を示します。そのことを認識し、キリストを救い主として受け入れ、バプテスマを受けられた方は、どうぞ主の晩餐に共に与って下さい。まだキリストを受け入れておられず、洗礼を受けておられなければ参加をお控え下さいますようお願いいたします。祈った後、執事が礼拝堂の四隅でパンとジュースをお配りします。その後、皆で晩餐に与りたいと思います。祈りましょう。

1 Corinthians 4:1-21 Faithfulness – the one criteria

Today in 1 Corinthians 4 Paul wraps up his thoughts dealing with the division in the church in Corinth. At the heart of these messy believers' disunity was a misunderstanding of what church leadership in the church is really supposed to be, so he addresses it with one primary idea – faithfulness. **If we truly understand our position in Christ as chapter 3 ends, then it demands a life of faithful service to him that does not allow for the prideful division that was taking place in this church.** Let's pray and then get into this chapter.

Paul has been addressing why it is wrong for these believers to divide themselves around these human leaders, apostles and other pastor/Elders. So how should we relate to those God calls to lead the church? That's how chapter 4 begins with the words, **"This is how one should regard us..."** He is saying, "instead of dividing yourselves around us and our personalities, this is how you should view us." So now he says, **This is how one should regard us ... as servants of Christ and stewards of the mysteries of God.** Everything for Paul is once again pointing away from these Apostles, these Pastor/Elders and to the one they are serving. They are simply servants and stewards or caretaker. The unspiritual people in the church were putting men on pedestals who seemed impressive and wise and eloquent. They were also putting misplaced loyalty in the one who had baptized them. Paul points to a different criteria for judging their leadership. Verse 2 says, **2 Moreover, it is required of stewards that they be found faithful.** This is the criteria for leadership in the church. I am required to be faithful. The way we judge effectiveness in the church is not gathering followers, gathering a crowd, building a business, gaining more money. The way we judge effectiveness in a church is faithfulness to the cause of the gospel – **"the mysteries of God."**

If faithfulness is the criteria for leadership, we need to know who is the judge of that faithfulness. Of course, he is writing to the church, to the members, and he is telling them to honor faithfulness. But even that judgement can be unspiritual and misguided. So, Paul makes clear that human judgement is not the primary level of accountability for himself and these other Apostles. Verses 3-5 say, **3 But with me it is a very small thing that I should be judged by you or by any human court. In fact, I do not even judge myself. 4 For I am not aware of anything against myself, but I am not thereby acquitted. It is the Lord who judges me. 5 Therefore do not pronounce judgment before the time, before the Lord comes, who will bring to light the things now hidden in darkness and will disclose the purposes of the heart. Then each one will receive his commendation from God.** Notice, he does not say that the judgment of the people in the church doesn't matter. But it is a **"small thing"** in comparison to God's judgement. He, as all Pastor/Elders are supposed to be, is serving Christ and will be judged by him. Paul or any leader, including me, could put on a false front of faithful ministry and make people think that he is a humble servant of God, while not truly being committed in his heart to following God's purposes. No Pastor or Elder or even Deacon is exempt from the temptation to appear pious and spiritual and faithful to our calling, while truly doing it out of selfish motives or even for financial gain. That's why Paul recognizes that the true judge Jesus Christ, sees what humans do not – the heart. Verse 5 says, **"will disclose the purposes of the heart."** In **1 Samuel 16:7, God tells Samuel, man looks on the outward appearance, but the Lord looks on the heart.** God will not judge me or you based on what other people around us see. He will judge us based on what he knows to be on the inside, who we truly are. While true faithfulness may not always be recognized or appreciated here on earth, God will recognize it. He will commend it and reward it publicly. Remember, though, back to chapter 3. There are some who are greatly respected here on earth, that may be building great ministries or great churches, but when they stand before God in the fire of his judgment, their true works will be like wood hay and straw in God's

fire. That is because God knows our heart and our true commitment to faithfully serving Christ as a steward of the Gospel.

Paul wants to make sure that they know that these words apply directly to them and how they judge local spiritual leaders, likely the Elders or others in their local church. So he says in verse 6, **6 I have applied all these things to myself and Apollos for your benefit, brothers, that you may learn by us not to go beyond what is written, that none of you may be puffed up in favor of one against another. 7 For who sees anything different in you? What do you have that you did not receive? If then you received it, why do you boast as if you did not receive it?** The phrase puffed up in favor of one against another shows that this is a local problem, not just one focused on these apostles that are likely well known to all the churches. It's like saying I follow John Piper, or I follow Al Mohler or I follow John MacArthur. But they were also saying, "I follow Ben Howard or I follow Hiro Akashi or I follow Kazunori Tabe." They were fighting over local leaders as well the Apostles and not properly seeing them through the eyes of Christ. They needed to NOT go beyond what was written – God's Word- in how they judged their church leaders. Paul understood he was writing Scripture, he was writing the Bible. So, he could say, don't apply a different standard (**go beyond**) to your local Elders and leaders, than what I have said regarding how Apollos and I do ministry. It is their pride, their being "**puffed up**" that has allowed them to go beyond the clear teaching of scripture. Their disunity was fueled by their pride. This pride led them to go beyond scripture in choosing who to follow. What is it that we have to be proud about? What is it that those leaders have to be proud about? The answer is NOTHING! Verse 7 says, everything we have is not a reason for pride because it is a gift that we have **received** from God! So, if it was something that we did not earn and cannot cultivate on our own, why should we boast about it or divide over it. Every good thing we have is an expression of God's grace towards us.

But we miss that, because of pride and arrogance. Instead of humble gratitude to God for these leaders and the Spiritual gifts they had received, they were acting entitled and arrogant. Look at Paul's sarcastic description of this starting in verse 8. **8 Already you have all you want! Already you have become rich! Without us you have become kings! And would that you did reign, so that we might share the rule with you!** Paul sarcastically points out their pride. These people thought they were spiritually rich. They were spiritual giants or kings who others should be following. While they said they were following the Apostles and their Elders, Paul is saying they were actually being self-centered. They were seeking their own glory, not honoring faithful leadership. At the heart of division in the church is pride. We think others should bow to our wishes and whims instead of humble submission of everything to Christ and church leaders who are following his leading in leading the church. Pride turns everything we do into an opportunity for self-glorification instead of God glorification. **It is the opposite of a life of faithfulness that Paul is saying is the mark of Spiritual leadership.**

As he continues from verse 9, Paul compares their egotistical pride to the cross-shaped faithfulness of the apostles. The difference is stark and telling. **9 For I think that God has exhibited us apostles as last of all, like men sentenced to death, because we have become a spectacle to the world, to angels, and to men. 10 We are fools for Christ's sake, but you are wise in Christ. We are weak, but you are strong. You are held in honor, but we in disrepute. 11 To the present hour we hunger and thirst, we are poorly dressed and buffeted and homeless, 12 and we labor, working with our own hands. When reviled, we bless; when persecuted, we endure; 13 when slandered, we entreat. We have become, and are still, like the scum of the world, the refuse of all things.** The apostles are not respected by the world,

instead they are an oddity, a **spectacle** to the world around them. This word was used to refer to those who were basically under a death penalty and were going to fight to the death against the gladiators in the Roman coliseums. They are looked at as fools, even by those in the church. On the other hand, those in the Corinthian church thought they knew everything... they were **“wise in Christ.”** They sought **honor**, while the Apostles who represented true spirituality and Christlikeness experienced hunger, thirst, lack of clothes, mistreatment and homelessness. Instead of speaking against their mistreatment, they endured it and even blessed their persecutors who looked at them as the lowest of creatures – **the scum of the world.**

Too many times, we want our faith to be respected in the eyes of the world. But if we truly understand what it means to follow Christ Crucified, it means we are clear in proclaiming that message that people are sinners in need of a savior. That doesn't lead to respect, but rejection. **There are many respected places of education in this world with Christian or Trinity or church in their name, because of their history. But today, there is no gospel present in those “Christian” institutions.** It is because if the focus had truly remained on the gospel, it would not be compatible with what passes as wisdom in education. So, they have laid aside the preaching and focus on Jesus Christ crucified for some vague statement of purpose based on Christian ethics or ideals without the cross. Essentially, this is what was happening in the church itself, as these divisive Christians took their eyes off Christ and put them on people. That pride, that wisdom they thought they had, was actually a rejection of everything the Apostles stood for. Paul says that God wants them to see by the apostles lives that following Christ is giving up everything and living as one who is already dead, so there is no pride in ourselves at all, but simply living in and through Jesus Christ. **Galatians 2:20 shows us this. 20 I have been crucified with Christ. It is no longer I who live, but Christ who lives in me.**

I'm sure these words were difficult for the Corinthians to hear. But Paul does not tell them these difficult things to hurt them, but out of love for them. Look what he says in verses 14-15. **14 I do not write these things to make you ashamed, but to admonish you as my beloved children. 15 For though you have countless guides in Christ, you do not have many fathers. For I became your father in Christ Jesus through the gospel. 16 I urge you, then, be imitators of me.** Paul thinks of them as children. He loves them too much to let them live in a way that does not reflect their position of being in Christ. He was the one who initially shared the gospel with them, and feels responsible to see that they remain rooted in the gospel. Hebrews 12 reinforces this using the illustration of human parents. **Hebrews 12:7-8 says, It is for discipline that you have to endure. God is treating you as sons. For what son is there whom his father does not discipline? If you are left without discipline, in which all have participated, then you are illegitimate children and not sons.** If we love our children, we discipline them. So it is with God, and so it is with Paul here. Out of love, Paul confronts his Spiritual children on their prideful actions that are leading to division and disunity in the church. And just like any good father, he ends his thoughts on how much he cares for them by saying, **“be imitators of me.”** Naturally, parents want to set good examples for their children to imitate. But Paul has spent the last 3 chapters basically downplaying his greatness and pointing the readers to Christ instead of himself. So, is he demonstrating the same pride he accuses them of? Definitely not. He is not saying imitate my greatness or my methods. He is saying imitate my faithfulness to Christ and the cross (the Gospel). So, once again, don't follow me, follow Christ. That is a heavy request to make. If you are going to say to imitate your faithfulness to Christ, then you must be following Christ closely yourself. Could you or I tell someone else to imitate our faithfulness to Christ?

As he finishes this chapter, he actually points them to **an example of that faithful life** in this man, Timothy. Read 17-21. **17 That is why I sent you Timothy, my beloved and faithful child in the Lord, to remind you of my ways in Christ, as I teach them everywhere in every church. 18 Some are arrogant, as though I were not coming to you. 19 But I will come to you soon, if the Lord wills, and I will find out not the talk of these arrogant people but their power. 20 For the kingdom of God does not consist in talk but in power. 21 What do you wish? Shall I come to you with a rod, or with love in a spirit of gentleness?** Paul points them to an example of what faithfulness actually looks like in his son in the faith, who he trained as an Elder – this Pastor, Timothy. Later on in 1 Corinthians 16:10, Paul says they can expect a visit from Timothy. When Timothy comes, he will show them what a faithful commitment to Christ looks like. Paul not only teaches them faithfulness, but sends someone he can point to as a model of that faithfulness that they can do life with and see it lived out. They will see the power of the gospel in his life. Paul hopes that they will respond to what he has said and what Timothy will remind them of and repent of the division, so Paul can come to them with gentleness rather than the spirit of the correction “The Rod” that he is using in this written letter.

As this section of 1 Corinthians wraps up, I want to focus on two key points of application from this passage. The **FIRST** and primary point of application here is that Faithfulness should be the criteria for leadership. As we consider who should be an Elder or a Deacon or a ministry leader at YIBC, the primary character trait we should be looking for is faithful humble service. You don't start to serve once you are a Deacon. The man or woman who should be a Deacon is already Deaconing (to make up a word)...in other words, they are already faithfully serving. That is how we should choose leaders and evaluate a leader's ministry. There is a **SECOND** point of application here as well. Pride is at the heart of disunity. Pride puts my desires and perceived needs above others. Pride says that the church exists to satisfy my needs and others should listen to me and follow my viewpoint. The more self-centered we are, the less unified we will be as a church. This is a subtle sin that we need to watch out for as we seek to be the church that God wants YIBC to be. I am going to be asking you to consider a new Church Constitution during 2023, that will adjust our leadership structure to be Elder led rather than Senior Pastor/Deacon led. I want to give many months for discussion before we vote on it, but it will require humility on all of our parts to come together in unity and agreement on various points of church government and structure within that document. Our long range Building and Grounds Team is making progress in finding solutions for our aging structures, but it will require humility to put aside our personal desires and seek the unity of God's purpose in approving a long term plan. And its not just those areas. Pride will destroy our unity as we seek God's will in every area of YIBC to be the church God wants us to be.

Every time we take the Lord's Supper, we celebrate the unity we have in Christ. The reason that happens is because if we take the Communion with real understanding of what we proclaim in this act, then we understand we have no place for pride. This bread and this cup represent the fact that we are all sinners and we all needed a sacrifice to pay for our sin. If you have recognized that and accepted Christ as your Savior and been obedient in baptism then I invite you to participate with us in the Lord's Supper today. If you have not accepted Christ or been fully obedient in baptism, then I would ask you not to participate today. After I pray our Deacons will serve the pre-packaged elements from the 4 corners of the sanctuary, and we will eat and drink together. Let's pray.